

令和7年度
第2回海田町まちづくり推進委員会議事録

【日時】2025年11月6日(火) 10:00~12:00

【場所】海田町役場

【参加】(敬称略)

広島大学大学院先進理工系科学研究科教授	田中貴宏
広島大学大学院人間社会科学研究科名誉教授	
海田町教育委員会委員	林孝
広島工業大学工学部環境土木工学科准教授	今川朱美
海田町自治会連合会会長	神田一之
海田町民生委員児童委員協議会会長	俵尚子
海田町公衆衛生推進協議会会長	川上一望
広島安芸商工会理事	富永浩司
広島県経営企画チーム	野地勇輝
学校法人幸和学園理事長	
学校法人信愛学園理事長	新谷耕平
広島銀行海田支店支店長	高橋諭史
気象防災アドバイザー	勝丸恭子
まちづくりに関するアドバイザー(不動産貸付業者)	三澤正明
町長	竹野内啓佑
副町長	夏日啓一
教育長	森山真文
企画部長	脇本健二郎
総務部長	鶴岡靖三
町民生活部長	丹羽勤
福祉保健部長	森川雅枝
建設部長	木村生栄
教育次長	新藤正敏
企画部次長兼かいたブランド課長	吉本真人
企画部かいたブランド課係長	大西諒
企画部かいたブランド課主任	溝兼茜

株式会社船井総合研究所 価値向上支援本部地方創生支援部

アソシエイト

富樫優斗

アソシエイト

山口柚子

【内容】

1. 開会挨拶

(海田町長)

- ・本日は早朝より大変お忙しい中、参加いただき誠にありがとうございます。
- ・日頃より各分野において、町行政に多大なるご協力、ご支援をいただいていることに対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。
- ・まちづくり推進委員会は今回で第2回目であり、第1回目は3カ月前に開催された。
- ・今年策定を予定している第5次海田町総合計画の後期基本計画について示し、皆様それぞれの立場から意見を頂戴し、議論を行った。
- ・その後、町議会の方々のご意見、そしてパブリックコメントを経て、現在当局の方で案としてまとめている状況である。
- ・ご出席の皆様には1週間ほど前に現状版の素案をお配りしている。
- ・いよいよ12月の議会で議決を得るという段階である。
- ・今回も前回と同様、皆様と活発な意見交換を行い、素晴らしい計画を創っていききたい。

2. 議事

(1) 第5次海田町総合計画後期基本計画について

I 事務局説明

<説明要旨及び説明項目>

- ・今回の説明では前回からの変更点やパブリックコメントの結果等を提示する。
- ・委員の皆様のご意見を伺いながら、今後の計画策定に生かしていく。

<後期基本計画策定スケジュール>

- ・まちづくり推進委員会においては、今回が第2回目の開催である。
- ・本年度12月には町議会に議案として計画案を提案し、並行して後期計画に基づく令和8年度予算の編成を進めていく。
- ・3月には第3回目のまちづくり推進委員会を開催し、その際には後期基本計画に基づく令和8年度の具体的な取組内容等も説明予定である。

<第1回まちづくり推進委員会の振り返り>

- ・第1回まちづくり推進委員会にていただいた意見を基に、計画本編の修正を行った。
- ・「前期基本計画の進捗の達成状況について」では、進捗度合いの数値化の計算方法が0

から1の評価であるため理解が難しい可能性があるとのこと指摘を踏まえ、対応策として計算方法の表記もパーセント表示に改めた。

- ・「アンケート結果について」では、住みやすい理由に交通の利便性が上がる一方で、転出したい理由に交通の不便性が上がり、矛盾しているように見える満足度調査結果について地域差があるとのこと指摘を踏まえ、小学校区別での分析を追記するとともに、強みと課題を整理の上、記載全般を改めている。
- ・また、前回委員会の主な議論の要旨についてもまとめを行っている。
- ・前回は合計特殊出生率の上昇と子育て支援策の検討、まちの課題と住宅供給について、まちの強みと行政の役割、転入・転出状況の分析について議論があった。
- ・加えて、地域の人口動態や子育て教育と地域の連携、企業誘致と観光事業、地域サービスの充実等についても議論があった。
- ・また、事前にお配りしている第1回目の議事録の末尾に、委員会終了後の追加意見も記載しており、子育て支援については、子育て支援の視点の必要性、子育て世代だけでなく、孫世代の視点も必要といった意見も掲載している。
- ・いただいた意見や議論の中身については、庁舎など全部署とも連携共有の上、今後の具体的な施策立案等に活かしていきたいと考えている。

<第2回全員協議会の振り返り>

- ・第2回全員協議会においても計画素案について意見をいただいた。
- ・人口分析、アンケート結果、強みの再整理、目標値の見直し、暑さ対策、ごみ減量化の取り組みについて意見をいただき、それぞれ対応を図っている。

<パブリックコメントについて>

- ・計画素案について、パブリックコメントの実施を行った。
- ・意見提出は5名の方から6件いただいた。
- ・提出方法は、専用ボックスへの投函が1人、オンラインでの提出が4人だった。
- ・意見内容は、総合計画策定に直接的に関係するものが1件、総合計画策定に直接的には関係しないものが5件だった。
- ・意見表の回答としては、パブリックコメント実施結果として、意見要旨とそれに対する町の回答を町ホームページで公表予定である。
- ・意見要旨としては、まちづくり推進委員会を構成する委員の顔や意見が見えてこないため、委員会の構成員名簿一覧の公開を求めるというものであった。
- ・この意見を踏まえた対応策として、計画の資料編にまちづくり推進委員会名簿の記載、計画書の本編にもまちづくり推進委員会での取組概要の一部を記載、議事録の町ホームページでの公開を図った。
- ・今回参加の方にお配りしている計画本体には、この対応策を反映させている。

- ・なお、総合計画策定に直接的に関係しないものについても、町政への提言として受け止め、別途回答を行う。

II 意見交換

(俵委員)

- ・パブリックコメントの件で、直接関係しない5件についてはどのような内容で、どのように回答するのかを知りたい。

(事務局)

- ・回答方法としては、パブリックコメント実施結果などと合わせて、町ホームページの方で公表していく。
- ・具体的な意見内容について1つ目は庁舎1階の町民交流スペースでのタウンミーティングについてで、1階の良いスペースを利用し、タウンミーティングなどの機会を作り、利用者の増を図ることで、地方行政について知る良いチャンスになると考えられるという意見であった。
- ・2つ目は旧庁舎跡地の活用案についてで、更地化して放置状態が続いているため、方向性の決定を求める意見であった。
- ・こちらは具体案として、多目的広場や多方面に有料貸し出しを行い、町主催や自治会による使用の際は無料とする案を提案するという提言も付随していた。
- ・3つ目は障がい者福祉施策についてで、令和8年3月31日に終了予定の海田町の精神障害者通院医療費の支給制度については継続してほしいという意見であった。
- ・4つ目は瀬野川沿いのランニングコースの除草についての要望であった。
- ・5つ目は飲料水の公共施策についてで、公共施設の飲料水の蛇口に、PFAS問題を鑑みて浄水器をつけてほしいという要望であった。

(新谷委員)

- ・「子育て教育と地域の連携」にある、3世代にわたった子育ての観点も必要というところが非常に面白い。
- ・これは現在、こども家庭庁などでも、高齢者施設の隣に保育園や子ども園を作るなど、実験的に行われている施策である。
- ・核家族化や共働き世帯の増加により、子どもたちがおじいちゃんおばあちゃん世代の方々と関わる機会が非常に少なくなっている。
- ・その結果、子どもたちが得られる遊びや体験、高齢者が持っている知恵や知識を受け取ることができないという問題がある。
- ・海田町は実家が近い家庭が多いので、狙いを持った交流ができれば、海田町ならではの取り組みになる。
- ・高齢者施設と園の連携、あるいは公園などのパブリックな空間を使った交流の場が非常

に大事だと考える。

(福祉保健部長)

- ・子育て支援センター事業の中で、3世代交流事業をかなり昔から実施している。
- ・特に今年度はシルバー人材センターの会員と子育て支援センターとの交流を12月にも予定している。
- ・海田町でも転入してこられた子育て世代が多く、また高齢者世帯だけの世帯も増加傾向にあり、世代間の交流は子どもたち、そして高齢者の地域参加や生きがいという点で必要になってくる。
- ・地域ニーズと地域の資源を引き合わせるため、シルバー人材センターや老人クラブとの連携など、地域資源をつないでいきたいと考えている。

(今川委員)

- ・3世代交流は良い取組であると思う。
- ・海田町は高齢者施設なども多く、各々で敬老の日などのイベントも行っている。
- ・その反面、シルバー人材を使って講演会などをした際に、高齢者の方の注意力が低下していたことによる大きな事故があった事例を記憶している。
- ・元気な世代が3世代交流をお膳立てすると、シルバー人材の方たちは自身の体調をないがしろにして尽力してくださる。
- ・依頼する私たちは、そのようにそれを防ぐのか、他の役割を考えることができるのかという、次のステップを検討する必要があるのではないか。

(福祉保健部長)

- ・シルバー人材センターを含め、高齢者の社会参加の場が求められている状況である。
- ・高齢者の方にはご協力いただいているが、その中で健康面が非常に重要になってくる。
- ・現時点での取組として、健康づくり推進課の保健師とヘルパーで、高齢者の方々の健康の意識をさらに高めてもらう機会の創出がある。
- ・また、一人暮らしの方や、地域とつながりにくい方については、地域包括の方で定期的な訪問をさせていただき、地域資源をしっかりと伝えていくということが重要であると考えており、その取組も強化していきたい。

(俵委員)

- ・民生委員として活動に加えて認知症サポーターの取組も行っている。
- ・職員と一緒に小学3年生対象に認知症の講座を行うが、事前のアンケートでは大半の子どもが認知症を知らない。
- ・また、周りに高齢者がいるという内容についても、「いない」「会ったことがない」「近所の人を通りすぎりで少し会う」というような回答が多い。
- ・町としての取組は一過性のイベントに終わらせず、高齢者と一緒に過ごすということを根付いたものにしていけると良い。
- ・海田町は以前から子育てのしやすいまちであるが、高齢者にとっても生きがいのあるま

ちになったら良いと思う。

(福祉保健部長)

- ・3世代交流の事業やイベントに終わらせないため、いきいき活動ポイントを参加毎に65歳以上の方に配布している。
- ・この事業は日々の子どもの見守り、地域での清掃活動等のボランティアや健康づくりという活動に対して付与している。
- ・実際の参加率も増えており、リピーターの方々に対してプレミアムのチケットを配るなど、地域での活動を支援していきたいと考えている。
- ・それに加え、各地域での関係機関との連携を強化していきたいと考えている。

(野地委員)

- ・計画内にて広島県との連携強化が必要と書いていただき、感謝する。
- ・県としても人口減少問題は大きな課題であり、地域特性を意識しながら対策を取っていく必要性を感じている。
- ・海田町は非常に特徴的なまちであり、全国的に合計特殊出生率が下がっている中、広島県も直近1.29という数字だが、海田町は非常に高い水準を維持している。
- ・これは若い人たちが入ってきているのもあるが、子育てしやすいといった要素があり、子育て世帯から選ばれているのだろう。
- ・ウォークアブルや高齢者との交流といった視点も出ており、人とのつながりや人の感性、本能的にいいと思える部分に着目しているかと思う。
- ・引き続き取組を続けていただき、素晴らしい先進事例を作っただけであれば、広島県全体が良くなっていけるきっかけになると思うので、大変期待している。

(高橋委員)

- ・全体的に各方面からの意見を取り入れ、より良いものになってきていると思う。
- ・しかし、パブリックコメントが5人6件という結果は寂しいと感じた。
- ・海田町に住みたい、移住したいにつながってくる重要な計画だと思う。
- ・町民の方は当たり前のこととして、町外の方にもこの計画を広めていくことが、これから重要になってくるのではないか。
- ・せっかく素晴らしい計画が改良を加えながら出ると思うので、その内容について皆さんで議論していきながら、海田町の情報をより多くの方に知っていただけると良いと思う。

(企画部長)

- ・パブリックコメントが1件だけだったのは残念に思っている。
- ・こちらの一番の目的は意見提出の機会確保であり、計画の更新との双方が叶うことが理想であった。

- ・計画をそのまま載せ、意見を求めるというやり方が難しかったのではという反省があり、概要版に近いものを作成するなどの工夫があったら良かったと思っている。
- ・この計画を町民の皆さんに示唆するのが大事だという点は、指摘の通りである。
- ・特に若年層や子育て世代に知らせていきたいと考えており、概要版やインターネット、SNS、動画なども作ることができれば良いと思っている。
- ・多様化した方法で計画内容を分かりやすく周知していくことが大事だと考えている。

<新しい視点と分野別計画について>

(三澤委員)

- ・この基本計画は、分野別計画の他に今回新たに「ヒューマンスケールのまちに繋がる5つの視点」が書かれている。
- ・資料を見ると、元の7本立ての計画と今回の5つの視点との繋がりや構造が見えにくいと感じた。
- ・見やすい資料があるなら共有をいただきたいし、ないのであればリンクさせた方が良いのではないか。
- ・また、まちづくりの推進の主な取組の中で、「庁内事業者による、事業者に対する財政面、広報面での支援」と書かれていた。
- ・これは基本計画なので、実行に移せる計画であるべきだと考えるが、この広報面の支援は表記が具体的ではないと感じた。
- ・具体案の例として、宮島駅のデジタルサイネージのようなものを設置するのはどうか。
- ・デジタルサイネージであれば民間の広告を流すことも可能である。
- ・町とJRと民間の持ち分があるのであれば、デジタルサイネージのようなものをインフラとして整備するというのは良い方法だと思う。
- ・「広報面での支援」という書き方ではなく、「広報インフラを整備していく」というような記載であると、計画を運用の際に動きやすいのではないか。

(事務局)

- ・新たな視点について総合計画が10年計画で、今回は後期計画というところで、前期計画からの継続という点で施策大綱自体は変えがたい中、後期計画においてこの5つの視点を（竹野内町政のもと）新たに加えたというところがある。
- ・その関係性が分かりにくいという点で、前回の会議の際に、この新たな視点と施策体系を紐付けした資料を示させていただいている。
- ・また、具体的な実行案についてはご指摘の通りであるが、この基本計画の下に実施計画があり、今内部的には後期計画をもとに予算編成を進めているところである。
- ・内部的には商工会の振興についても新たな新事業などを議論しているが、予算編成や議会説明を経た上で、3月の委員会の方では、後期計画に結びつく具体的な来年以降の新規拡充の取り組みを示せればと考えている。

- ・また、具体策としてのデジタルサイネージについては、来年の予算編成、あるいは新規拡充の施策立案も踏まえて、共有し、検討を進めていきたい。

(企画部長)

- ・広報支援と書かせていただいたのは、町の広報紙で、町内企業や店舗の紹介をこの4月より進めているからである。
- ・創業支援で出している企業やふるさと納税に参加いただいている企業など、関わりのある企業をまず取り上げ、広報紙を使って紹介する取組は始まったばかりである。
- ・デジタルサイネージなどは今後検討していかなければいけない分野だと思うが、計画の中では少し広めの幅を取らせていただき、広報面での支援と記載している。

(今川委員)

- ・街への愛着度と住みたいという結果に相互関係があるのは当然だが、5年前のアンケート結果を見てもほぼ横ばいである。
- ・気になるのは、20歳代の人たちの愛着度があまり高くないことである。
- ・海田町はこの世代の人たちに海田町を応援してほしいと思われていると思うが、なぜ低いのか。
- ・居住年数を見ると、当然短い人が愛着とか定住意向が少ないが、この20代の中に、短い間しか住んでない人がどの程度いるのかがこの本編アンケート分析からは読めない。
- ・可能であれば20歳代の内訳を示し、なぜ20歳代が伸びないのかを可視化してほしい。
- ・出生率については、頑張っているというご意見をいただき嬉しく思っている。
- ・それに際しての努力は、この先も同じことを続けていて効果が出るとは思わない。
- ・例えば、海田町のような小さな町で2カ所も出産できる病院があるのは素晴らしいことだが、その医師はおそらくもうすぐ退職である。
- ・代わりの医師を連れてくることは可能なのか、それができない場合は入院している女性を病院の近くに引っ越すことができるのか、ライフプランを考えると良い。
- ・出生率と活力ある人口動態のためにも、その2つある病院のお産を担っている先生の状況など、支援することはできないのかと思う。
- ・加えて、パブリックコメントを出してきてくださっている方は、長く海田町に住み続けているご高齢の方が中心かと思う。
- ・せっかくタウンミーティングなどしているのに、なぜ20代の人たちを呼んで、一緒に総合計画のことを考える機会を作らなかったのか。
- ・海田町出身者が公務員になるとしても、海田町を受けるのではなく、県に入庁するというパターンを直近で見えており、なぜそうなるのかが疑問である。

(企画部長)

- ・若者、女性に選ばれるまちづくりを進めていきたいと強く思っている。
- ・アンケートの詳細分析について、前回1回目の委員会でご意見をいただき、今回計画で

25 ページ目以降にアンケート分析を全般改めたところである。

- ・ 25 ページは総論として町の強みや定住意向を評価し、26 ページ以降にクロス集計の結果として、年齢別での愛着度、居住区別、居住年数別での定住意向を分析している。
- ・ 若者の方々が何年住んでいるかというところまでは深掘り表示ができていない。
- ・ 若者女性というところで、タウンミーティングにおいても、若者の意見を聞くべきだという点をご指摘の通りである。
- ・ 昨年度からタウンミーティングを実施しており、海田高校や国際学院の生徒を招いて、例えばサテライトオフィスなどの活性化についてご意見をいただいた。
- ・ まだ実現はしていないが、今年度も海田高校、国際学院を訪れて、文化祭などの機会を捉え、総合計画のまた意見を聞けたら良い。

(今川委員)

- ・ 今の 19 歳以下への働きかけは、5 年後の 20 歳には効いてくるかもしれないが、今の 20 歳代の人には効果がないのではないか。
- ・ 現在 20 歳代の考えていることを知ることが重要である。
- ・ これから出産する人たちが定住しない場合、確実に出生率が下がっていく。

(企画部長)

- ・ 若年層を伸ばす施策は、すぐに答えることが難しい。
- ・ これまでも海田高校の生徒会や国際学院高校の生徒会の皆さんにワークショップをして、意見を聞き、大人になり海田町に戻ってきた際にほしいものについて意見を聞いたりした。
- ・ 高校生には意見が聞きやすいが、現在の 20 代となると、意見を捕まえにくいという課題がある。
- ・ どのように意見を聞き、反映させるかの想定はできていないが、内部で検討し来年度から計画を進めるにあたって、1つの大きなテーマとして考えていきたい。

(今川委員)

- ・ 今、海田町に住んでいる高校生の何%が海田の学校に通っているか確認しているのか。
- ・ 私の感触では、3割が広島市の偏差値の高い高校に通っている。
- ・ 勉学を頑張った子どもが外に出ている現状がある。
- ・ 広島市内の高校に通っている学生が、最終的な答えとして「多分広島の方が面白い」ということを言っていた。
- ・ 広島に出ているけど、ここに住んでいる高校生、または大学生みたいな方の意見を集めることが重要ではないか。
- ・ 例えば成人式の際に「意見頂戴会」のようなものができたら良いのではないか。
- ・ 参加者には海田特製の水とパンを渡すなどすれば、参加が増えると思う。

(企画部長)

- ・ 海田高校と国際学院高校の生徒が海田町出身かというところは、承知していないのが事

実である。

- ・ワークシヨップした際も、出身校を聞いたら、海田町出身者はほとんどいなかったというのが現状である。
- ・海田町出身者が、海田の高校に行っているという状態でないのは事実だと思われる。
- ・成人式は、毎年町で行っており、やはり地元の子が集う。
- ・教育委員会がいろんなシビックプライドを醸成するための仕掛けを考えている。
- ・最終的にはシビックプライドが刺激をされて、海田町に目が向くようにしていかなければいけないと思っている。
- ・しかし、住むのは海田町でも良いが、働くなら広島市とか府中町が選ぶという問題は存在すると思う。
- ・町に目が向くような仕掛けというのは、この5年間の中で検討し、来年度予算、3年間の実施計画の中で、しっかりと反映させていきたい。

(高橋委員)

- ・海田町で生まれて、学校も行って、大学まで行って、出産もして、死ぬまでというのがベストであるが、大学の誘致やショッピングモールの誘致などの全部の実現は難しい。
- ・20代の人話は広島県全体の問題でもあると思う。
- ・そこを海田町一つでやっ飛ばすというのは困難であり、ぜひ連携するところは連携してやっていただき、予算も削減できると良い。
- ・海田町で頑張るところと県と連携するところを計画の中でしっかり見せていく方が措置としては良いと考える。

(野地委員)

- ・人口減少の話について、広島県としても大きな課題と認識している。
- ・なぜ20代が多く転出しているのかということも、調査分析やインタビューを相当行ってきた。
- ・構造的に大きい問題として、大学の定員数が東京に集中しており、大学進学タイミングで多くの子どもたちが東京都の方に行き、そこにまた、大企業が集積しているため、東京都の方での就職活動が中心となってしまうことがある。
- ・人口減少という背景もあり、今まで入れなかったような難関大学に入学できる、そして大企業に入社できるという流れが太くなってきている。
- ・また、給与の格差といったところが非常に若者の社会の中で大きくなってきている。
- ・ただ、それでも広島を選んでくれる人の声を聞くと、やはり家族とのつながりといったところに大きな価値を見出している。
- ・これは数字で測れるものではないが、小さい頃からの経験として、家族と過去に積み上げてきた思い出が頭の中に残っていることが大きいのだと思う。
- ・そういったところが、都内での就職活動中に想起されにくくなっているのが、若者を東京大企業での就職活動ばかりにさせてしまっている要因であると思う。

- ・広島県としても、何らかの手をこれから打っていきたいと考えており、若者の広島に定着回帰するイメージ醸成といったところで、今年予算も組んでいる。
- ・まだ具体的ではないが、今までスポットが当たりにくくなっているような価値観に、若者が目を向けてくれるような取組を進めていきたい。

(富永委員)

- ・前回も少し話したが、今の若い人たちは、いろんな憧れや説明がつかないイメージのもとで出て行ってしまう。
- ・自身の娘ももう広島に帰ってくることはないという宣言をされた。
- ・結論から言うと、出ていくものはしょうがないのではないかと思う。
- ・行きたいという願望が子どもを引き留める政策をむやみに実行するのは効果的ではない。
- ・それであれば帰ってきたいまちを作り続ける、移住していききたいまちにしていくという部分へ注力していくべきである。
- ・また、海田町はいろんな取組しているが、それを発信する手段が重要であると思う。
- ・伝える相手によっては SNS でも良い年代もあるだろうし、広報紙はご年配の方には多分活字が良いと思われる。
- ・そういった区別をしながらやっていくべきであり、専門家を呼べば、もっとアイデアはあるはずである。
- ・AIなどを活用すれば、海田町が今取り組んでいることが、いろんな質問に対して答えてくれると思うので、そういったものを活用するのが良いのではないか。
- ・アンケートでは、「なんとなくこういう街よね」という答えが返ってくるので、具体的な施策に対して賛同しているような具体的なものが少ないと感じる。

(町長)

- ・出て行く人を止められないというのは、誠に真実だと考えている。
- ・私自身の経験で言うと、私も海田町で育ち、大学では関西の方面に出て、そちらで働いて戻ってきたが、戻ってきたときは広島市内に住んでいた。
- ・なぜ海田町に戻ってきたかという、やはり親である。
- ・親から「帰ってこいよ、こっちに住んだら子育てもしやすい、近住でフォローしてあげるから」と意見をもらい戻ってきた。
- ・親が帰ってこいよと言えるような環境づくりを公共だけではなくて、民間の方々と一緒に連携して作っていくということが今求められている。
- ・その環境についてはやはり若者とか女性とかの視点をしっかり踏まえ、ニーズに応じたものにしていくことが重要である。
- ・建物だけではなくて、ソフト的なコンテンツも含めて、取組を進めていく必要がある。
- ・今川委員からの 20 代の方にどう訴求させていくかという意見はまさに大事なポイントである。

- ・案のひとつとしては学校づくりの強化である。
- ・海田東小学校を皮切りに、海田小学校もハードをきれいにしていく。
- ・教育というのは大きな牽引力あるものだと考えている。
- ・「学校がいい、いい環境で学べる」というところを意識する若い世代、子育て世代は比較的多いのではないかと思う。
- ・今の海田町の土地はすごく爆上がり状態で、若い人が住みにくいような環境になっているが、その中でも入ってくる富裕層といわれる層にもう少しアプローチできるような環境整備を進めることも有効だと思われる。
- ・また、我々はいい施策を打っていきたいと思って、日々努力しているわけだが、それが伝えるだけではなくて、伝わるものでないといけないと思っている。
- ・しっかりセグメントを分析しながら、本格的な広報をやっていかないといけない。
- ・高齢者は紙への親しみが強いので、そういう方がターゲットにしたものは紙が良い。
- ・一方、若者は散乱した情報よりも一気に伝わるものに惹かれると思うので、セグメントに応じた広報は重要である。
- ・大きな都市に住みたいと思う人がいる一方で、小さな個性がきらりと光るようなまちに住んでみたい、そこでチャレンジしたい、暮らしてみたいみたいな人たちって結構多いのではないかと思う。
- ・そういう層を獲得できる土壌をしっかりと作っていくところをやっていききたい。
- ・そのためには、民間とか専門分野の方々と一緒に意見交換してアイデアをいただくことが重要になると考えている。

(川上委員)

- ・ゴミ減量の取組という問題の中で、ゴミの減量化の前に、そもそもゴミが出る前の取組を進めるべきだという声がある。
- ・私たち公衛協としては、今、海田町に約 80 名の推進員を自治会から出している。
- ・その 80 名が約 170 カ所の資源物ステーションと、約 700 カ所の燃えるゴミのステーションについて、各地域で管理をしながら、網を変えたり、掃除したり、などの形でゴミの取組を行っている。
- ・私たち公衛協は 6 年前ぐらいから、推進員だけでなく住民も含めて、ゴミの正しい出し方について講習会を実施している。
- ・計画本編の 117 ページ中に、住民 1 人当たりのゴミの配置する量が 1,180g と出ているが、これは海田町の方が作っている資源物の関係の 10 年計画内の数値であることを知っている方は多くない。
- ・10 年前からデータを見たら、可燃ゴミの部分は緩やかに減少傾向にある。
- ・人口は増えているが、ゴミの出す量は減ってきているというのが実態である。
- ・また、ゴミの資源化も進んでおり、リサイクルが進んでいる現状もある。

- ・そういう結果から、勉強会の中で必ずデータで出して 10 年間の傾向を説明している。
- ・基本的にやはりゴミの問題は、やはり総量削減をしていかないと、最終的によいまちづくりとはならない。
- ・海田町はみんなゴミをうまく出される場所で、クリーンなまちとなれば、非常に幸せになれると思っている。
- ・公衛協はより住民に沿った活動をしていきたいので、今回の提案も含めて具体的に取組強化をしていきたい。
- ・最後をお願いしたいのは、立派な計画ができたのに、知らない人が多すぎる。
- ・やはりどこかにアピールすることと、出前講座などの際に紹介をすることなどが有効なのではないか。
- ・テーマが難しいかもしれないが、是非ともご検討していただければと思う。

(町民生活部長)

- ・協会の皆さんには、ごみ処理について様々なご指導をいただき、誠に感謝申し上げます。
- ・海田町にも 10 年のごみ処理基本計画があり、ホームページ等での掲載を行っているが、知らない方が多くいるのだと思う。
- ・我々も海田町ゴミを処理するにあたって、ゴミをどう軽量化していくかっていうことを計画で定めているので、町民に広く知っていただけるように、努めてまいりたい。
- ・資源化はもちろん、ごみの減量化、食料ロス等、海田町からもより一層 PR していこうということで、検討を進めているところである。
- ・ただ、その前段として、ゴミを出さないようにしていく取組、エシカル消費の推進も議会から提案があった。
- ・やはりそこも、行政だけで解決できる問題ではないと思っているので、町民の協力も得ながら、後期の基本計画に基づき、しっかりと進めていきたい。
- ・また、後半のプロモーションは当然やっていくとともに、出前講座についても、要請があれば積極的にやっていきたいと考えている。

(俵委員)

- ・障がい者福祉の推進のところで、障「がい」をひらがな表記にしている配慮に感謝する。
- ・私は県の障がい者福祉の会議に出ており、そこでは「害」が漢字になっている。
- ・ひらがなにしない理由を伺ったところ、県の方の回答は、国の方針が漢字の「害」で統一しているから、県もそれに倣うというものだった。
- ・漢字表記はいじめ・差別につながる可能性がある。
- ・障がいがある方も、普通の健常者も条件は同じであり、ともに地域で楽しく過ごすという目的のもとに差別のないまちにできると良い。
- ・子どもたちも障がいがある人から学ぶことも多いと思うので、お互いに学び合う関係性

であることを認識していただけると良い。

- ・海田町独自やり方なのかはわからないが、国の方針に左右されず、配慮をいただいていることに嬉しさを感じる。

(勝丸委員)

- ・温暖化について、全員協議会の方から、暑さ対策の取組について意見が出たということで、116 ページから 117 ページにかけて環境、温暖化対策について記載がされている。
- ・計画ということで行政が取り組むことを記載していると思うが、ぜひとも住民が主体となって取り組んでいくことをしっかりと啓発してもらいたい。
- ・今 10 代の子どもたちが 80 代になる頃にはどんな未来が待っているかわからない。
- ・地球環境は防災にも直結してくることなので、そういう取組にも力を入れている点をぜひ町内外にアピールしてもらいたい。
- ・また、海田町では防災の面で民間との協定も結んでいると認識している
- ・先日、畝や石原の地区の方とお話ししたところ、山と川と両方から被害を受ける地域の方は避難を躊躇している印象があると意見をいただいた。
- ・民間との協定により県営住宅、自衛隊の建物設置する計画があると思うので、そのあたりの施策を何か防災に活かすことができないのかと思った。
- ・20 代が出て行ってしまうという話とも絡むが、親世代が定住していて、「やっぱりいい町だな」とか「親がここに住んでいることが安心だな」と思ってもらえるためにも、防災面で行政が力を入れているという安心面を PR してもらえたらと思う。

(町民生活部長)

- ・地球温暖化について、行政が頑張っても、海田町だけで二酸化炭素の排出量を抑制することは不可能である。
- ・町民の皆様のご協力がなければ、絶対に達成し得ないものだと考えている。
- ・町からの発信、アピールによって達成できるものと認識しているため、積極的に広報啓発、そして町民の皆様には排出抑制の体験をしてもらうなどの取組を進めていきたいと考えている。

(建設部長)

- ・ご指摘の通り、畝地区は避難に適した施設が乏しく、厳しい状況だと認識している。
- ・本日は県営住宅や自衛隊の新官舎とか、良いアドバイスをご提案いただいたので、地域の方々が安心して避難できるような体制が整うように取り組んでいきたい。

(林委員)

- ・「子育て支援」という言葉を出したが、こちらは子どもを主人公にするという考え方が海田町の将来を担うのではないかという意図を持って使っている言葉である。
- ・子育てと並べて子育てで考えると、幼い頃から意識づけができるのではないかと思う。

- ・また、分野別計画が個々に縦割りになっているように感じる。
- ・教育という観点だけでも、様々な地域の活動が子どもたちの学びに結びついている。
- ・福祉や防災を含めて「海田町」というものを学んでいるので、そのような視点を計画にも落とし込めると良い。
- ・分野別計画内の「現状と課題」の部分を確認すると、現状の記載に不足部分が多いように感じる。
- ・例えば108ページでは、芸術文化の振興という文言があるが、これらを進めている窓口は文化スポーツ協会であると思う。
- ・そのような住民主体の取組に対して、もう少し記載を増やしても良いのではないか。
- ・また、106ページの歴史文化の継承というところでは、西国街道の伝承活動をしている人たちの現状というのを上げていくということも大事なのではないか。
- ・そのような方々をはじめとした住民が主体となって町内で取組を進めていることを計画に記載することは町外へのアピールにも繋がると思う。
- ・加えて、123ページのまちづくりの推進という中で、自治会の負担軽減と記載されているが、自治会は今、なり手が少ないという課題を抱えている。
- ・負担軽減という文言だけでなく、自治会の役割や海田町に不可欠は活動をしているという点を現状部分に記載しなければ他責思考となり、なり手が減少してしまう。
- ・自治会の大変さだけでなく、活動の重要性を明確に伝えなければいけない。
- ・さらに、この計画は後期の5年間の計画だが、その後は新たな計画に行くので、長期的なスパンの中でのこの5年間の位置づけの記載があると良いのではないか。

(教育長)

- ・子育て、子育て支援という言葉の表現についての意図は承知している。
- ・子どもが減少している現状の中で、企画は保護者や地域の方、子どもは参加するのみという状況が最近増えている。
- ・本来は、関わることを企画するところから子どもたちが入り、その中で学びをしながら成長していくという状況を作っていくべきである。
- ・本町においては、子ども議会のような活動を進めており、子どもたちの学習の中での提案を町政の中でどう生かすかという部分を検討する機会を設けている。
- ・ぜひ子どもたちを主役にして、子どもたちが気づかぬうちに、自分たちで学びながら成長していく場を学校教育・社会教育の中で作っていけると良い。
- ・また、分野別計画が縦割りになっているという点については、現在作成を進めている海田町の教育大綱にて整理する。
- ・学校教育というのは9年間という限られた期間であり、それは社会教育全体を考えた時にほんの一部でしかない。
- ・したがって、生まれてから、最終的に高齢になるまでの生涯の中でも、学習や体験を積み重ねながら成長していくという環境を作ることが教育の本来の姿である。

- ・家庭教育の支援や社会教育に子どもたちをいかに参画させて地域で学ばせるか、というところも今後明記する必要があると考えている。
- ・西国街道ボランティアについて触れていただいたが、やはり歴史文化等の伝承というところは、活動者が背景にいて、初めて成り立っている部分であると感じる。
- ・ここは企画担当とも連携しながら、昨年度も 250 周年記念で盛り上げ企画も実施した。
- ・表面上だけではなく、支えていただいているという背景部分にもしっかり焦点を当てながら、文章中にも盛り込めたらと考えている。

(町民生活部長)

- ・自治会の負担軽減について、基本計画の 123 ページに記載を行っている。
- ・昨年、自治会にアンケートをとり、「町からの仕事が非常に負担に思う」という回答が多く出たため、自治会の負担軽減の対策を進めている。
- ・加入者の減少をはじめとした多くの課題がある中で自治会の方も活動いただいていると思うので、町としても支援策を打ち、今後の自治会の活性化に繋げていけたらと思う。
- ・当然に自治会がなくなれば、その地域のつながりであるとか、福祉とか防災にも影響してくるので、海田町独自の手法でサポートしていきたい。

(2) その他

<住宅供給と町営住宅の在り方について>

(三澤委員)

- ・町の課題と住宅供給について、直近 5 年ほどで感覚的には土地が 2 倍ぐらいに上がっており、普通だったら住宅が買えない状況になっている。
- ・そんな中で住みたい人が住める状況かどうかの分析は今後重要になってくると思う。
- ・民間はワンルームを増設し、賃貸数を増やせば儲かるので、よりファミリーが住まない物件を進める思考になっている。
- ・そういった中でファミリー向けの物件が海田町に足りているのかどうか伺いたい。
- ・また、民間に任さない町の対策を結構全国でやっている事例が増えてきている。
- ・神山町の大埜地の集合住宅が魅力的で、入れる年齢が限定されており、若年層しか入れない仕組みになっている。
- ・海田町も町営で、魅力的な若者向け住宅があると人が集まりやすいのではないか。
- ・高齢の人に住んでもらいたかったら高齢の人向けの住居、30 代に住んでもらいたかったら 30 代向けの住居が必要だということで、目的に合わせて、ターゲットに合う住居を町営で作るのは効果的ではないかと思う。

(建設部長)

- ・現在の海田町の町営住宅というのは、セーフティーネット的な扱いで運用している。
- ・今回ご意見いただいたご意見をもとに、まちづくりの視点からも、検討させていただけたらと思う。

(三澤委員)

- ・住宅に加えて、若い人が帰ってくる時に仕事がないという問題がある。
- ・解決策として、広島では6年前からクリエイター向けのコミュニティを作っている。
- ・そこに入ってもらおうと、広島での活動難易度が下がり、以前のメンバーの一人は今、広島駅の南側に出店を行っている。
- ・出店についてもコミュニティ経由で設計、施工を行い、広島駅のSC開発ともつながって、そこから事業にしていくという流れも作ることができた。
- ・このようなコミュニティが重要だったという結果が出てきている。
- ・これらの活動についてはすぐにできる場所というのが必要である。
- ・割と良いのは、住居と事業所、店舗が併設されているというものである。
- ・すぐに出店でき、そのまま居住も可能で、単価を上げることも可能である。
- ・このような取組を民間でやっているところはほとんどないが、町としての目的が移住者・事業者である場合は一石二鳥の取組である。
- ・余っている土地が例えば旧庁舎のところが活用が難しいっていうのであれば、そういったものを検討してみるのもいいのではないかと思う。
- ・町とかが何か事業始めた際、儲からないという問題が一番にあると思うが、不動産は儲からないという事態にはなりにくい。
- ・町の目的にも合うし、収益にもつながるので、新しい形の町営住宅というのは非常にいいのではと思われる。

<計画に使用されている文言と体裁について>

(林委員)

- ・計画策定の基本姿勢の文中に「都市像」と記載があるがこの表現に違和感がある。
- ・海田町も都市ではあると思うが、規模感としては町の要素が強い。
- ・「まちづくり」という表現に調整するのはいかがか。
- ・また、高齢者にとっては文頭が揃っていると読みにくい場合もある。
- ・段落が切り替わる部分は文頭を1文字下げる形の記載が良いのではないか。
- ・加えて、文章の後ろが揃っていないので、両端揃えに修正が必要だと思う。

(田中委員)

- ・「都市像」に関しては、言葉の明確な定義はなく、現状の使い方でも問題はない。

(事務局)

- ・デザイン性、文章表現も含めて、見やすく、スッキリさせることが重要だと考える。
- ・本日いただいたアドバイスを参考に全体的な調整を進めていく。

3. 閉会

(田中委員)

- ・本日は時間の関係もあり、ここで会議を終了とする。
- ・追加で意見のある方は、後ほど事務局にお伝えいただけると良い。
- ・熱心な議論、誠に感謝申し上げます。

◀配布資料▶

【資料1】第5次海田町総合計画後期基本計画について

【資料2】第5次海田町総合計画後期基本計画案